琉球大学学術リポジトリ

# 地域素材を活用した保育内容「表現」の授業：沖縄のわらべうたを基にした絵本づくりを通して



| メタデータ | 言語: |
| --- | --- |
| | 出版者: 琉球大学教育学部音楽科 |
| | 公開日: 2016-01-29 |
| | キーワード (Ja): |
| | キーワード (En): |
| | 作成者: 小川, 由美, Ogawa, Yumi |
| | メールアドレス: |
| | 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/33208 |

# 地域素材を活用した保育内容「表現」の授業

## ──沖縄のわらべうたを基にした絵本づくりを通して──

# A Class of Children Content 'Expression' that Utilized Local Materials

## -Through the Picture Books Making that are Based on the Children's Songs in Okinawa-

小　川　由　美
Yumi Ogawa

### 1．研究の背景

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』に示されている領域「表現」では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする。」ことを目標としている。さらに、そのねらいの一つとして「生活の中でイメージを豊かにし，様々な表現を楽しむ」ことが挙げられている。生活の中でイメージを豊かにする方法の一つとして、子どもの生活に密着した素材を用いることが考えらえる。子どもが暮らす地域にある素材を活用することで、子どもの身の回りの生活に密着した領域「表現」の活動を展開していけるようになるだろう。子どもの生活に密着した地域の素材を活用するという視点は、保育者が持っていなければいけない視点である。そこで、保育者養成の段階から、子どもの生活と表現の関わりについて考察していく学習機会があることが重要であると考える。

### 2．研究の目的

保育者養成課程の保育内容「表現」における地域素材を活用した学習のあり方を考察し、その意義と可能性を示す。

### 3．研究の方法

（1）地域の素材を活用した保育に関する先行研究を概観し、保育内容「表現」において地域素材を活用する視座を得る。

（2）保育内容「表現ⅠA」において、地域素材を活用した内容を取り入れ、全 15 回の授業を

計画する。

（３）「表現ＩＡ」受講者が行う「わらべうたを素材とした絵本づくり」の制作活動において、受講者が地域のわらべうたをどのように捉え、絵本としてつくっていったかを考察し、保育者養成段階において地域素材を活用した学習機会があることの意義を考察する。

## ４．地域素材の活用

### （１）先行研究における地域素材の活用

菊池ら (2014) は、「地域教材を活用した保育内容『領域』の融合型授業の試み」において、地域教材を活用する意義や有効性を次のように挙げている。

①　保育内容に対する総合的な理解

保育内容の５領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）は、「子どもの生活全体を通しておこなわれる」ものであり、「領域相互が行き来」している。つまり、生活を中心に考えて保育を考えていくことで、保育内容を相互に関連しながら総合的に理解していけるようになると示唆している。そして、領域相互を関連させて総合的に理解できるようになるには、保育者養成校の「学生自身が身近なものに目を向けるようになることが重要である」と述べている。保育者を目指す学生自らが、全ての領域が生活と関わっていることを実感することは、子どもが生活の中でどのようなことに興味を持ち、発見をし、人と関わり、成長しているのかを理解することにつながるだろう。そのような保育者を育てていくためには、「学生自身の感性に働きかける」ことが重要であり、そのためには、「身近な環境にかかわる機会を設ける」ことが必要であるとし、ここに地域教材を活用する意義を見出している。

②　実体験のさらなる充実

菊池らの先行研究では、地域にある環境（特に自然環境）を活かすことで、野外での遊びによる運動能力の向上、動植物や景色を見て様々な発見や気づきをする、他者とのコミュニケーションが活発になる、といった子どもの成長の姿が想定されている。これらの姿は、下記のように「健康」「環境」「人間関係」の各領域からの視点として指摘されている。

保育内容「健康」では、地域にある広々とした公園や森林や山を活用し、屋内では難しい身体活動を展開することで体力の向上が指摘されている。また野外での身体活動は五感を養うことができるとされる。保育内容「環境」では、身近にある自然と触れ合うことで、「様々な事象に興味や関心をもつ」「発見を楽しんだり，考えたり，それを生活の中に取り入れようとする」「物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにする」といったことが挙げられている。保育内容「人間関係」では、「子どもどうしで共感することが可能となるような共通体験を意図して取り入れる」ことで、子ども同士のコミュニケーションが成立し、「共に過ごすことの喜びを味わう」という内容にもつながると考えられている。

以上、先行研究に示されている地域素材の活用の意義や有効性からは、二つの示唆を得るこ

とができる。一つ目は、保育者自身の感性を刺激し、身近な環境に対する意識を変えていくことで、子どもの生活に寄り添った目を持つ保育者を養成できることが期待されていることである。子どもが生活の中で何を見て、感じているのかを保育者自身が理解することが大切である。そこで、まずは保育者養成の段階で、学生が身近な地域に目を向け、何かを感じ、そこに意味を見出していけるようにすることが重要となってくる。

二つ目は、地域という身近な環境の中でも、特に自然に着目すると良いということである。自然は学びの宝庫である。子どもは、動植物と触れ合いながら、様々な発見をし、感じ、学んでいく。まさに五感を使って世界を体感し成長していくと考えられる。

以上より、地域の中でも特に「地域の自然」を取り扱った素材を用いることが有効なことが見えてきた。しかし、今回取り上げた菊池らの先行研究では、領域「言葉」「表現」からの視点は挙げられていない。菊池らの研究の他に、地域素材に着目した保育者養成の授業に関する先行研究で、領域「表現」からの視点で考察されたものは、管見の限り見当たらない[1)]。そこで本研究では、地域の自然と関わる表現素材に着目し、領域「表現」の視点からの保育者養成の可能性について考察してくこととする。

### （2）領域「表現」で活用する地域素材

子どもの生活が色濃く表現された素材の一つとしてわらべうたがある。わらべうたは素朴な音楽構成をしており、その音楽的特徴は時代を超えて変わらず今も受け継がれているが、その歌詞の内容は各地域や時代を反映して作り替えられてきた（小泉 1994，p.112）。ここで重要なのは、わらべうたが子ども自身によって作り替えられてきた、という点にある。つまり、わらべうたの歌詞には子どもの生活が色濃く反映されるのである。

本学が所在する沖縄県には、伝統的な沖縄ならではのわらべうたが存在する。それらのわらべうたは、全国的に歌われているわらべうたとは違い、ウチナーグチという沖縄の言葉で歌われ、音楽的にも県外のわらべうたとは違う特徴を持つものが多い。何より「沖縄の子供たちの自然と人間生活に対するふくよかな感受性が、詩的な面でもひろがりのあるすばらしい世界」（杉本信夫 1980，p.197）が感じられる歌が多い。

## 5．わらべうたを素材とした絵本づくりの実際

### （1）保育内容「表現Ⅰ A」の授業

保育内容「表現Ⅰ A」を受講する学生は、沖縄県内出身者が多く、また沖縄県外出身者であっ

---

1）郷土の文化に着目した「表現」に関する保育実践の事例研究として大庭（2009）のものがあるが、この先行研究では、保育者養成における取組みとしての視点では扱われていない。
大庭三枝 (2009)「総合的な学びとしての幼児の身体表現指導に関する事例研究 － 郷土の文化に育まれる保育 － 」『福山市立女子短期大学研究教育公開センター年報』6，pp.77-82

ても幼稚園での教育実習を沖縄県内で行う学生がほとんどである。そこで、沖縄に伝わるわらべうたを紹介・実践して頂く講師を招き、「地域のわらべうたの紹介と実践（沖縄のわらべうた）」という講義を計１回実施することで、沖縄の伝統的なわらべうたに触れる機会を設けている（表１参照）。

表１　保育内容「表現Ⅰ A」シラバス

| 回 | 授業内容 |
|---|---|
| 第１回 | オリエンテーション |
| 第２回 | 幼児における「表現」とは何か |
| | 幼稚園教育要領』『保育所保育指針』における「表現」領域 |
| 第３回 | わらべうたにおける「言葉・動き・音楽」 |
| 第４回 | 様々なわらべうた（手遊び・指遊び・輪遊びなど）の紹介 |
| 第５回 | 地域のわらべうたの紹介と実践（沖縄のわらべうた） |
| 第６回 | グループによる地域のわらべうたの紹介と交流 |
| 第７回 | 幼児における音楽と身体表現 |
| 第８回 | 幼児における楽器づくり |
| 第９回 | 物語と音楽との関わり |
| 第 10 回 | 絵本の読み聞かせについて |
| 第 11 回 | わらべうたを素材とした絵本づくり① |
| 第 12 回 | わらべうたを素材とした絵本づくり② |
| 第 13 回 | 絵本の読み聞かせ：企画 |
| 第 14 回 | 絵本の読み聞かせ：企画＆模擬実演 |
| 第 15 回 | 絵本の読み聞かせ：発表会 |

受講生は、全 15 回の授業前半で様々なわらべうたに触れ、音楽と遊びの動きと言葉の特徴とが密接に関わりあっているという、わらべうたの構造について理論的に学んでいく。そして、受講生の出身地域のわらべうたについて調べて紹介する活動を行う。さらに、音楽と身体、音楽と物語、といった音楽とその他の表現手段との相関関係を演習を通して学んだ上で、わらべうたを素材とした絵本づくりを行う。

わらべうたを素材とした絵本づくりでは、まず物語の土台となるわらべうたを選定するところから始まる。その際に、わらべうたの歌詞から「子どもが見ている世界」がどのようなものであるかを感じ取ることを意識させる。例えば、虫のことが歌われているわらべうたでは、子どもの目線に立って、子どもにはどのようにその虫が見えているのかを考えさせる。そして、子どもの目を通して見た世界を、学生なりに理解してふくらましていき、物語を創作していく。最後には、制作した絵本を用いた絵本の読み聞かせを行う。

### （2）学生が作成した沖縄のわらべうたを素材とした絵本

今回は、2014 年度と 2015 年度に受講したグループから、2 つの学生グループが作成した絵本を取り上げる。2 つの学生グループの受講年度は異なるが、どちらも「月」を題材にした沖縄のわらべうたを選択し、絵本制作を行っている。2014 年度に受講した学生グループ A は、4 名のメンバー全員が沖縄県内の出身者であり、2015 年度に受講した学生グループ B は、4 名中 2 名が沖縄県内の出身者・他の 2 名が沖縄県外の出身者で構成されたグループである。同じような題材を選択した 2 つのグループを比較し、構成メンバーの出身の違いが絵本制作にどのように影響していったのか、また地域の素材を用いたことがどのように作用していたかについて考察していく。

① 学生グループ A『絵本　あっとーめーたり』（2014 年度受講生）

「あっとーめー」とは「月の小児語」であり、「とーとーめー」と同義語である (高江洲 1992，p.39)。昔より沖縄の人々は、月を尊いものとして捉え、「尊いあなた」といった意味で「とーとーめー」とも呼んでいたとされる（高江洲 1992，p.25）。歌詞にある「大餅（うふむち）　やとぅ餅（むち）　うたびみそーり」とは、子どもたちがお月さまに向かって「お餅」をねだっている内容であり、まん丸なお月さまとお餅を重ね合わせて捉えるような、昔の沖縄の子どもたちの柔らかな感性が感じ取れるわらべうたである。

あっとーめーたり　あっとーめー
大（うふ）餅（むち）　やとぅ餅（むち）
うたびみそーり　あっとーめー
来年（やーん）ぬ　今夜（くぬやー）
馬（んま）ぐぁーやらわん　牛ぐぁーやらわん
あぎやびら　タリタリタリ

（訳）お月さま　お月さま　大きな餅　でっかい餅　くださいな　お月さま
来年の今夜も　馬でも　牛でも　差し上げましょう
(高江州 1992，pp.38-39)

図 1　沖縄のわらべうた《あっとーめーたり》の歌詞と訳

学生グループ A のメンバーは、全員が県内出身ということもあり、『沖縄のわらべうた』（高江州義寛著 1992，沖縄文化社）などの、沖縄のわらべうたばかりを集めた曲集を基に素材を探し始めた。そして、《あっとーめーたり》のわらべうたに出合い、歌詞の意味を調べることで、「月」に対する子どもの豊かな感性を感じ取っていった。

表２　学生グループＡの絵本の内容（学生作成の台本より）

| 絵本番号 | 物語の内容 |
|---|---|
| 絵本① | （絵本の表紙） |
| 絵本② | むかーしむかし、ある村に琉ちゃんという男の子がすんでいていね、琉ちゃんは毎日、夜のお空をみるのが大好きだったんだって。<br>・・・・お月さまとこんばんは・・・・ |
| 絵本③ | そんなある夜のこと。琉ちゃんが夜空を見上げていたら、まん丸いおつきさまが顔をだしてきたわけさ。「そっか。今日は十五夜だ。」すると、琉ちゃんは、まん丸いおつきさまを見て、お餅がたべたくなったんだって。そしてこんな歌を歌ったわけ。<br>♪《あっとーめーたり》を歌う<br>すると・・・ |
| 絵本④ | なんとおつきさまがお餅を一個落としてくれるではありませんか。琉ちゃんは嬉しくなって妹の花ちゃんを呼んだって。そして、またあの歌を一緒に歌ったわけさ。<br>♪《あっとーめーたり》を歌う<br>すると・・・ |
| 絵本⑤ | またまた、おつきさまから一個お餅が落ちてくるではありませんか。琉ちゃんと花ちゃんは嬉しくなって、今度はおばあちゃんを呼んできたんだって。そして、またあの歌を歌ったわけさ。<br>♪《あっとーめーたり》を歌う<br>すると・・・ |
| 絵本⑥ | 何という事でしょう。お空からたくさんのお餅が降ってくるではありませんか。「こんなにたくさんのお餅を３人だけでは食べられんねー。」とオバァが言うと、花ちゃんが「みんなに分けてあげよう！」というので、３人は近所の人みんなを呼んでお餅を食べることにしたわけ。<br>「もぐもぐ」「おいしいね！」みーーな夢中になってお餅を食べていました。<br>「もぐもぐ」「もぐもぐもぐ」「あれ？」 |
| 絵本⑦ | 「おつきさまがいない！？」そう、おつきさまはたーくさんのお餅をあげたために、いなくなってしまったわけさ。 |
| 絵本⑧ | 「よし、お餅を作って、おつきさまを元に戻そう！」そう男の子が言うと、「そうだそうだ！」村の人々は次々にお餅を作っては、おつきさまに届けたんだって。<br>すると・・・ |

| | |
|---|---|
| 絵本⑨ | なんとおつきさまが戻ってきたのです！それから、みーんなお餅をたべながら素敵な夜を過ごしたんだって。そんなむかーしむかしのお話だったとさ。 |

＊表２の絵本番号は、「写真１～９」の「絵本①～絵本⑨」と対応している。

写真１　学生グループＡ作成の絵本①

写真２　学生グループＡ作成の絵本②

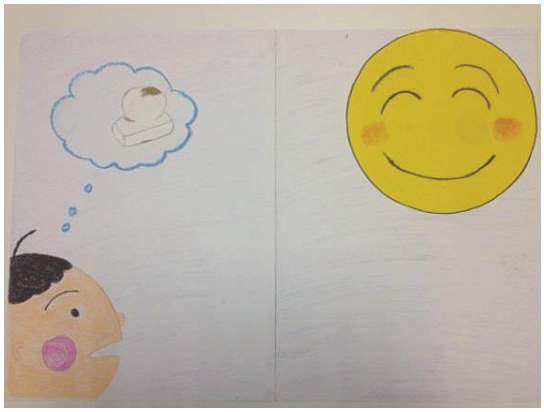


写真３　学生グループＡ作成の絵本③

写真４　学生グループＡ作成の絵本④

写真 5　学生グループ A 作成の絵本⑤

写真 6　学生グループ A 作成の絵本⑥

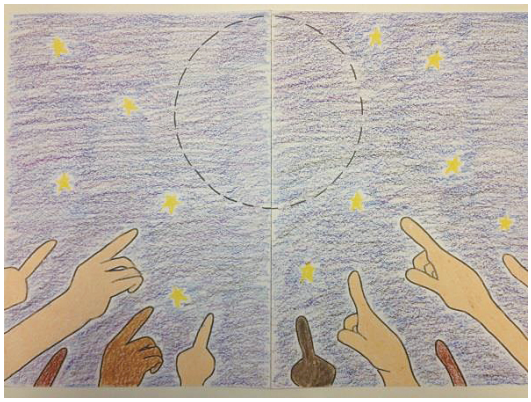


写真 7　学生グループ A 作成の絵本⑦

写真 8　学生グループ A 作成の絵本⑧

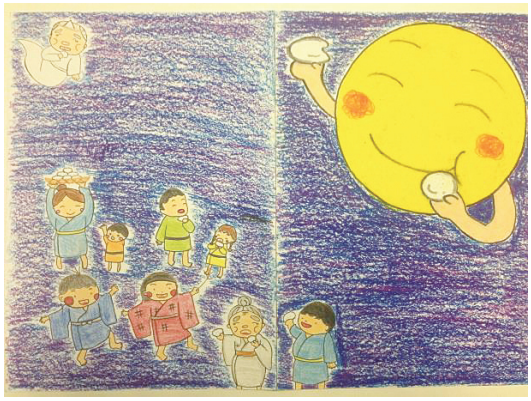
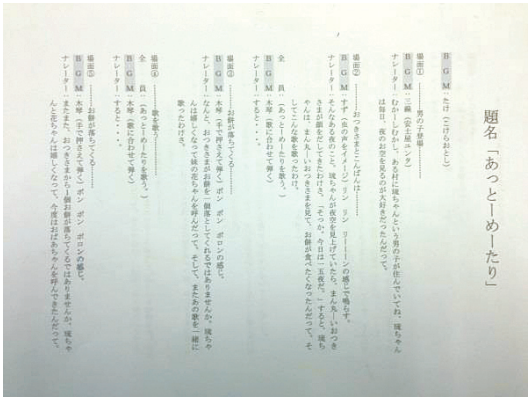


写真 9　学生グループ A 作成の絵本⑨



題名「あつとーめーたり」

B.G.M.たけ（こけらおとし）

場面①――――――

【「地域のわらべうたの紹介と実践（沖縄のわらべうた）」受講後の感想文】

表３　学生グループＡの感想文

| | |
|---|---|
| 学生ａ<br>県内 | 沖縄のわらべうたは、リズムや音階が独特で、方言は聞き取れないけれど雰囲気で「自分たちの歌」という感じがします。地域によって微妙に歌詞が変わるのも、地域の生活の中にある感じがして好きです。わらべうたでお年寄りとあそべるのもいいなと思います。楽しかったです。ありがとうございました。 |
| 学生ｂ<br>県内 | 沖縄のわらべうたをたくさん紹介していただきましたが、私の知らないものばかりでした。でも、どこか聴いたことのあるような、なつかしいうたばかりでした。わらべうたはうたって楽しむこともできるし、遊びと一緒に楽しむこともできてとてもお得だと思いました。うたって体を動かすとすごく気分が上がるので、今日は楽しんで体験できました。沖縄のわらべうたが、こんなにあると思わなかったです。 |
| 学生ｃ<br>県内 | 私は、沖縄のわらべうたを今回紹介してもらった中では、“じんじん”しか知らなかったので、今回たくさんの沖縄のわらべうたを知ることができて良かったです。とても面白くて、子どものときに知っていれば、たくさん遊んでいただろうなと思いました。方言というと難しくて、私達世代になるとあまりなじみのないものとなってしまいましたが、方言で歌われているわらべうたは、歌詞の意味も面白く、リズミカルで、もっとどんなのがあるか知りたいと思いました。子ども達ともわらべ歌を通して遊びたいです。 |
| 学生ｄ<br>県内 | 今日は、沖縄のわらべうたについて講義を受け、実際に動いて体験することで、とても楽しい時間と貴重な時を過ごすことができたなと思います。沖縄にいて、あまりわらべうたについては知らなくて、各地域によって様々な歌や遊び方や言葉が違ったものがとても多くて、面白いなぁと感じました。そして、わらべうたは楽しいだけでなく、その地域にすんでいた子どもたちの感じ方や生活が映し出されていて、面白いなと感じると同時に、自分の住む地域のわらべうたを探してみたくなりました。貴重な講義をありがとうございました。 |

＊波線は筆者による

②学生グループＢ『絵本　天のお月さま』（2015 年度受講生）

素材としたわらべうた《天（てぃん）ぬとーとーめー》は、「背中遊び」といって、背中合わせになって、一人の子どもがもう一人の子どもを背中に乗せた状態で歌うわらべうたである。夜に野外でこの遊びを行うと、背中に乗せられている子どもは、夜空を見上げる形となるため、晴れた夜にはお月さまが見えるだろう。お月さまが見えている状態を楽しんでいる間は、背中から降ろされないように、「まだ月が見えてないから降ろさないで」という意味を込めて「見（みー）らん（見えないよ）」と歌う。しかし、次第に背中に乗っている状態がしんどくなって降ろしてもらいたくなると、「見（みー）ゆん（見えたよ）」と答える。こういった問答のやり取りが面白いわらべうたである（高江州 1992，p.15）。またこの歌は、年長者が小さな子を背中に乗せてあやす時にも歌われていたようである。

天（てぃん）ぬ　とーとーめー
見（みー）ゆみ　見（みー）らん
あんしぇ　うるさん
天（てぃん）ぬ　とーとーめー
見（みー）－ゆみ　見（みー）ゆん
あんしぇ　うるすさ

（訳）天のお月さまが　見えるかい　見えないよ　それじゃあ　おろさないよ
天のお月さまが　見えるかい　見えたよ　　それじゃあ　おろすよ
（高江州 1992，pp.14-15）

図２　沖縄のわらべうた《天（てぃん）ぬとーとーめー》の歌詞と訳

学生グループＢは、県外出身者もいることから、最初は沖縄だけでなく様々な地域のわらべうたの中から選ぼうとしていた。そして最終的に、「月」を題材にした《天（てぃん）ぬとーとーめー》を選んでいったが、その理由には、子どもをあやす時の母親の愛情や家族のつながりが垣間見えるような遊びの状況に共感できたことが大きいようであった。そして、子どもが大人や年長者の真似をする様子なども取り入れて絵本を制作していった。

表４　学生グループＢの絵本の内容（学生作成の絵本より）

| 絵本番号 | 物語の内容 |
|---|---|
| 絵本① | （絵本の表紙） |
| 絵本② | ある日、あみはなかなか眠ることができませんでした。<br>「お月さまが、黒い雲でかくれてまっくらだ。怖いよぉ。」<br>そうしていると　お母さんがやってきて言いました。<br>「眠れないの？じゃあ少しだけ、お外に散歩しに行きましょう」 |
| 絵本③ | あみとお母さんは近くの海へやってきました。<br>「あみがよく眠れるように歌を歌ってあげようね。」<br>♪《天ぬとーとーめー》を歌う<br>「お母さん、それはどういう意味の歌なの？」<br>「お月さまが見えるか見えないかお話している歌なのよ」<br>「そうなんだ」<br>「お母さんも小さい時、夜眠れないときは、お母さんのお母さんにこの歌を歌ってもらっていたのよ」 |
| 絵本④ | ♪《天ぬとーとーめー》を歌う |
| 絵本⑤ | 次の日「おねえちゃん、眠れないよぅ」と弟のゆうたが言ってきました。<br>あみもお母さんにしてもらったように、ゆうたをおんぶして、歌を歌います。 |
| 絵本⑥ | ♪《天ぬとーとーめー》を歌う |
| 絵本⑦ | 「クマ助も眠れないの？」と言って、ゆうたもクマのぬいぐるみをおんぶして歌います。<br>♪《天ぬとーとーめー》を歌う |
| 絵本⑧ | やさしい月あかりのもと、みんなすやすやねています。<br>「てぃんぬとーとーめーぐぁ、みーゆみ・・・」<br>しずかなよるに、どこかからうたが聞こえてくるようでした。 |

＊表４の絵本番号は、「写真１１～１８」の「絵本①～絵本⑧」と対応している。

写真１１　学生グループＢ作成の絵本①

写真１２　学生グループＢ作成の絵本②

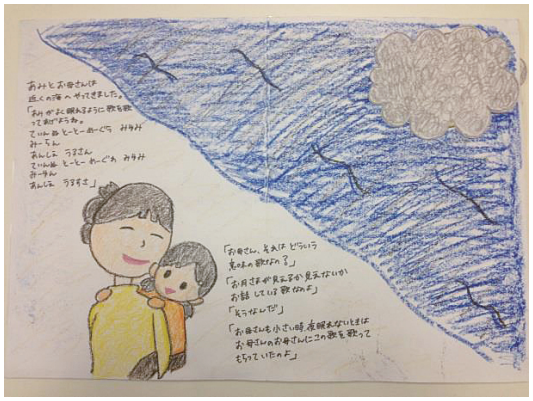


写真１３　学生グループＢ作成の絵本③

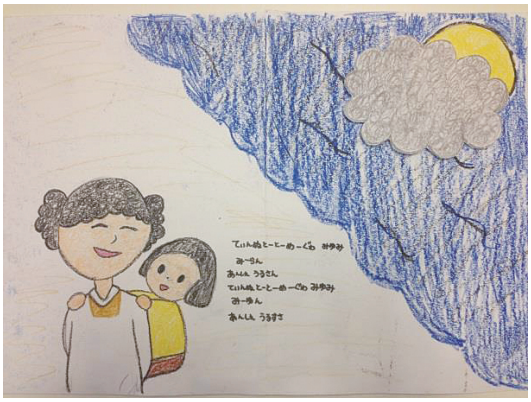


写真１４　学生グループＢ作成の絵本④

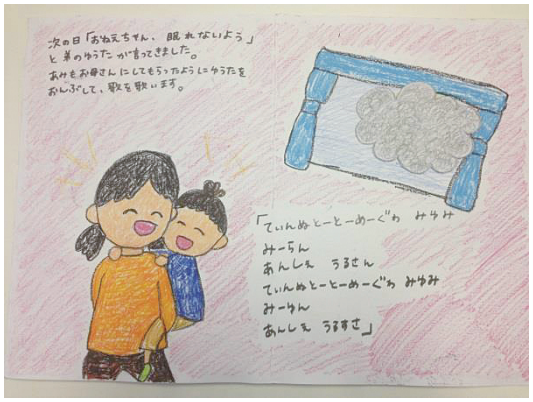


写真１５　学生グループＢ作成の絵本⑤

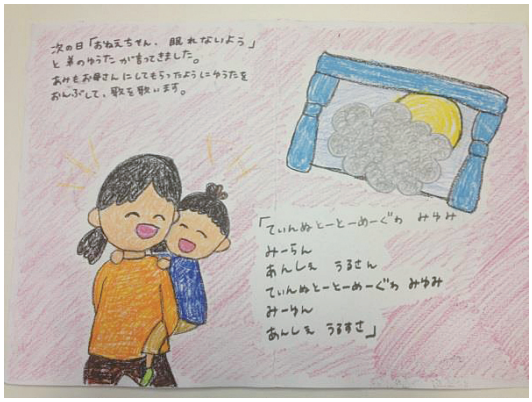


写真１６　学生グループＢ作成の絵本⑥

写真１７　学生グループＢ作成の絵本⑦

写真１８　学生グループＢ作成の絵本⑧

【「地域のわらべうたの紹介と実践（沖縄のわらべうた）」受講後の感想文】

表５　学生グループＢの感想文

| | |
|---|---|
| 学生ｅ<br>県外 | わらべうたは単純ながらも、子どもの生活をよく表していて面白いと思いました。というか子どもがこれをつくったのか・・・！と思うと結構感慨深いです。今日の授業のわらべ歌をやっていると、子どもの目線に立って、昔の沖縄の生活をかいまみれたような気がしました。あと、さんごや貝のお手玉の音がキレイでした |
| 学生ｆ<br>県外 | 色々なわらべうたで遊んで、すごく楽しかったです。言葉がすごく難しくて、沖縄に住んで３年経つのに全然方言がわからないなと実感しました。最近は、方言もあまりわからないものは聞かないし、どんどん使われなくなっているように思いますが、その地域の特色なので少しもったいない感じがします。私は東京生まれ育ちなので、ずっと方言というものがうらやましく思っていたので、大切にしていってほしいです。ありがとうございました。 |
| 学生ｇ<br>県内 | 今日は沖縄のわらべ歌を習ったが、私は沖縄出身だが聴いたことのないうたがたくさんあった。沖縄の生活や自然、歴史の絡んだ歌を、私達はテレビや授業等でしか聴いた事がなかったので、子ども達にも私達が伝えていかないといけないと感じた。歌と身体のリズムが合うわらべ歌を聴くのは楽しいので、もっと探したい。 |

＊波線は筆者。１名は幼稚園実習により該当講義欠席のため、感想文は３名分のみである。